

会 議 名	第1回MINATOビジョン コ・デザイン会議
開 催 日 時	令和7年5月9日（金曜日）午後3時30分～午後5時
開 催 場 所	港区役所 914・915会議室
構 成 員	【出席者】清家愛区長（座長）、泉山墨威委員（オンライン）、遠藤まめた委員、大木聖子委員（オンライン）、金圓景委員、古長谷鷹念委員、コバーチ・エメシエ委員（オンライン）、佐々木孔明委員、杉山琴珀委員、中川哲委員、藤原和広委員、森山誉恵委員 【欠席者】—
事 務 局	【出席者】大澤副区長、浦田教育長、荒川企画経営部長、相川企画課長 【欠席者】野澤副区長
傍 聴 者	10人（オンライン最大同時視聴者数：23人）
次 第	1 委員委嘱 2 新たな総合計画「MINATOビジョン」について 3 検討の進め方について 4 シンポジウムについて 5 MINATOビジョンの策定に向けたガイドブックについて 6 情報発信について 7 その他
資 料	資料1 新たな総合計画「MINATOビジョン」について 資料2 検討の進め方について 資料3 シンポジウムについて 資料4 MINATOビジョンの策定に向けたガイドブック（たたき台） 資料5 広報みなと5月15日号 参考資料1 MINATOビジョン コ・デザイン会議構成員一覧 参考資料2 MINATOビジョン コ・デザイン設置要綱
会議の結果及び主要な発言	
清家区長	<p><開会> お時間になりましたので「第1回MINATOビジョン コ・デザイン会議」を開会させていただきます。座長を務めます、港区長の清家愛です。よろしくお願いいたします。</p> <p>委員の皆さんにおかれましては、ご多忙のところ、この会議の委員をお引き受けいただきまして本当にありがとうございます。</p> <p>本日、皆さんとお会いしまして、この港区のこれからの将来像について、あるべき姿について議論できるこの時間を楽しみにしておりました。ありがとうございます。短い時間ではございますが、どうぞよろしくお願いいたします。着座にて失礼いたします。</p> <p>本日、会議の出席状況ですが、泉山墨威委員、大木聖子委員、コバーチ・エメシエ委員がオンラインで参加をされていらっしゃるようです。杉山委員はこちらに来るのが遅れていらっしゃるようになって</p>

おります。オンラインで発言をされる際は、お手数ですが挙手のボタンを押していただきますよう、よろしくお願いいたします。

なお、本日の会議は会場にもたくさん、傍聴にいらしていただきありがとうございます。オンラインでの傍聴も可能となっております。発言される委員がどなたかオンラインの方にも分かるように、発言される際は最初にお名前をおっしゃっていただければと思います。

それでは、まず、コ・デザイン会議の目的について説明をさせていただきます。

現行の区の最上位の構想であります港区基本構想は策定から22年以上経過をしているところです。この間、グローバル化、テクノロジーの進化、価値観の多様化と、大きく人々の暮らしが変化してまいりました。そのことから基本構想を新たにつくり、新たな総合計画としてMINATOビジョンを策定することといたしました。

これからどういう未来が予測されていくのか、データをもとに将来像を描いていく。そして、区民だけでなく、区に関わる人たち、ステークホルダーの参加を得て、あるべき港区の姿というものを描いて、その同じ方向に向かって共に進んでまいりたいと思っております。

その第一歩となりますのが、本日からスタートいたします「コ・デザイン会議」となります。日本は超少子高齢化社会が到来し、あらゆる分野において人材不足が顕著になっています。この社会を維持していくために、そして港区においても質の高いサービスを提供し続けていくために、まさに変化の岐路に立っているところだと思っております。

2040年代を見据えて、様々な社会課題を乗り越え、そしてその先にある、明るく希望あふれる港区の未来を、委員の皆様方と一緒に創り上げていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、お手元の「次第」に沿って進行を進めさせていただきます。資料に不足がありましたらお申し出ください。

清家区長

< 1 委員委嘱 >

まず、「1 委員委嘱」についてです。

委嘱状はお一人おひとりに直接お渡しさせていただきたいところですが、お時間の関係もごございますので、委嘱状は机上配付とさせていただきます。また、泉山委員、大木委員、コバーチ委員におかれましては、後日、郵送させていただきます。

委嘱期間につきましては、MINATOビジョンが開始する令和9年3月末までとしております。MINATOビジョンの策定に向けて、お力添えをどうぞよろしくお願い申し上げます。

続きまして、委員の皆様から自己紹介をお願いできればと思います。「参考資料1」が委員一覧となっておりますので、お手元にてご覧ください。

それでは、遠藤委員から時計回りで、終わりましたら泉山委員、

	大木委員、コバーチ委員の順からお願いをいたします。
遠藤委員	はじめましての方もいらっしゃるかと思いますけれども、一般社団法人「にじーず」という団体の代表理事をしております遠藤と申します。普段はLGBTの子ども・若者の居場所というものを全国様々なエリアで開催をしており、また、メタバースを使って、そういう子どもたちの居場所事業などもやっております。よろしくお願いいたします。
金委員	明治学院大学の金圓景と申します。普段は社会福祉士の養成をしております。専門分野は高齢者福祉、その中でも特に、認知症の方、又は、そのご家族方がより良く生きるためのご支援の在り方について研究していたり、外国人介護人材の調査などを進めているところです。よろしくお願いいたします。
古長谷委員	スカイランドベンチャーズ株式会社の古長谷鷹念と申します。今年度開催された「二十歳（はたち）のつどい」の実行委員長を務めさせていただきまして、若者代表ということでこの場に来させていただいたので、若者らしい意見をしっかり言えたらと思っております。よろしくお願いいたします。
佐々木委員	株式会社レッドクリフ代表取締役の佐々木孔明と申します。弊社の事業としては、ドローンショーというサービスを提供しております。空を活用して、空のメディアとして、エンターテイメントや、広告プロモーションなどを行わせていただいております。また、日本ドローンショー協会の代表理事も務めております。これからのインバウンドや、ナイトタイムコンテンツのところで、港区に何かご支援できれば嬉しいなと思っております。よろしくお願いいたします。
中川委員	社会構想大学院大学の中川と申します。よろしくお願いいたします。私は専門が情報でして、特に教育工学が専門領域ということになります。今、文部科学省の視学委員をしております。初等・中等教育で今、子どもたちはタブレットを使っていますけれども、GIGAスクール構想の立ち上げに関わっております。また、教育分野でデータを使ってもっと教育を良くできないかというようなことを考えて、株式会社EdLogという会社を主宰しております。よろしくお願いいたします。
藤原委員	みなと環境にやさしい事業者会議所属の藤原です。本業は東京ガス株式会社で東京中支店に所属しております。東京ガスという大きい会社ですけど、本社が港区にありまして、今港区様と脱炭素のエネルギー環境に向けた取組を一緒に進めているということで、今回この会議で委員をさせていただいているというところでございます。皆さん、どうぞよろしくお願いいたします。
森山委員	認定NPO法人3keysというNPOの代表をしております森山と申します。私どもは15年ほど前から主に虐待や、親に頼れない子どもたちの支援活動を、各地の地域団体や児童養護施設等と連携して支援している団体で、今回は子ども・若者の権利や子育てという観点で参加しているのかなと思っております。昨年度まで、港区の「高校生の居場所づくり」にも参加させていただきまして、そのご縁もあります。今回楽しみにしております。よろしくお願いいたします。
泉山委員	日本大学の泉山と申します。まちづくりの分野で呼ばれたのかと

	<p>思うのですけれども、専門は都市計画・都市デザインでして、ウォークアブルなまちづくり、道路・公園といったパブリックスペース、行政や民間、地域の皆さんと一緒にまちづくり、エリアマネジメントということを専門にしております。港区の中では浜松町エリアの近くの竹芝というエリアでまちづくりのアドバイザー等させていただいて、そのご縁で呼んでいただいております。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
大木委員	<p>慶應義塾大学の大木と申します。慶應大学は港区内にあるのですけれども、私が所属している環境情報学部は湘南藤沢キャンパスというところであって、遠いのですけれども、今日は授業の予定があったのでオンラインで参加させていただいております。</p> <p>私自身、育ちは東京なのですが生まれは大阪でして、高校1年生のときに阪神淡路大震災が起こって、自分の馴染みのある地域があのように被災したということで、その日の晩に地震学者になろうという決意をして今に至っています。特に東日本大震災後は防災教育という観点から、文部科学省さんの教育行政とか、それから今、防災庁設置準備アドバイザー会議が内閣官房にありますけれども、そういったところに関わらせていただいております。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
コバーチ委員	<p>ハンガリー大使館の次席でコバーチ・エメシェと申します。過去5年間、ハンガリー大使館の文化部であるリスト・ハンガリー文化センターで文化担当官として仕事をしまして、5月から次席になりました。私は20年弱日本にいます。武蔵大学で社会学を学んで、そこで博士後期課程が終わったあと、ハンガリーのカーロリ・ガージュパール・カルビン派大学で日本学科の先生として勤めて、2000年に日本に戻り、外交官として働いています。港区に住んでいます。よろしくお願いいたします。</p>
清家区長	<p>ありがとうございます。続きまして、事務局を紹介させていただきます。</p>
大澤副区長	副区長の大澤です。
清家区長	よろしくお願いいたします。
浦田教育長	教育長の浦田です。
清家区長	よろしくお願いいたします。
荒川企画経営部長	企画経営部長の荒川です。
清家区長	よろしくお願いいたします。
相川企画課長	企画課長の相川です。
清家区長	<p>なお、副区長の野澤は公務の都合により本日は欠席となっております。以上、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは次第に戻りまして、進行を進めさせていただきます。</p> <p>< 2 新たな総合計画「MINATOビジョン」について > < 3 検討の進め方について ></p>
清家区長	「2 新たな総合計画「MINATOビジョン」について」「3 検討の進め方について」、一括でご説明させていただき、まとめて質問をお受けしたいと思います。事務局から説明をお願いします。
相川企画課長	企画課長の相川です。よろしくお願いいたします。私から、「新

たな総合計画「MINATOビジョン」について」及び「検討の進め方について」ご説明させていただきます。着座にて失礼いたします。

資料1「新たな総合計画「MINATOビジョン」について」をご覧ください。

はじめに、MINATOビジョンについてご説明いたします。真ん中の図、左側をご覧ください。

現在、港区では、平成14年に、区の10年ないし15年後を展望し、将来像と施策の大綱を示した「港区基本構想」、港区基本構想の実現に向けた道筋を政策・施策・事業等で示す「港区基本計画」「港区実施計画」を策定し、区政運営を行っております。しかし、港区基本構想の目標年次を経過していることから、このたび、見直しを行うこととしました。今後は、基本構想、基本計画、実施計画を統合し、新たな総合計画となる「MINATOビジョン」を策定いたします。右の図になります。MINATOビジョンでは、2040年代の将来像を描き、政策・施策、行政経営の考え方を示します。

続きまして資料2「検討の進め方について」の資料をご覧ください。

まず、スケジュールについてです。令和7年度は区の2040年代の将来像を検討し、令和8年度に政策・施策等を立案して素案を公表します。素案のパブリックコメントを経てビジョン策定となります。なお、ビジョンは令和9年度から施行いたします。

次に検討体制についてです。

本日、お集まりの有識者の皆様の会議体「コ・デザイン会議」と区民参画組織の「タウンフォーラム」を設置し、双方が連携して将来像の案の検討を進めます。

次のページをご覧ください。検討の進め方についてです。

コ・デザイン会議は、本日キックオフとして第1回を開催しておりますが、全部で4回開催する予定となっております。今後ですけれども、7月にシンポジウムを実施します。シンポジウムは2部制で行う予定となっております。なお、シンポジウムにつきましては、のちほどの資料で詳細をご説明させていただきます。シンポジウムのあと、タウンフォーラムを8月～10月に3回実施し、将来像についてワークショップ形式で検討し、将来像をデザイン化して取りまとめます。11月にコ・デザイン会議でタウンフォーラムの各グループから将来像を発表していただき、12月のコ・デザイン会議で区の将来像案を確定いたします。

なお、多くの区民の皆様等の意見を反映させるべく、右下にございますとおり、今月、区民2,500人の無作為抽出による区民意識調査、全区民アンケート、オンラインディスカッションを行うとともに、6月には「みなと子ども会議」にて子どもからも意見聴取を行います。ご説明は以上となります。

ご質問などがありますでしょうか。よろしいですか。それでは進行を進めさせていただきます。

<4 シンポジウムについて>

続きまして、「4 シンポジウムについて」、事務局から説明をお願いします。

清家区長

清家区長

相川企画課長	<p>それでは資料3「シンポジウムについて」をご覧ください。</p> <p>次回のMINATOビジョン コ・デザイン会議では、「コ・デザインザ フューチャー ～港区の未来を一緒に描こう～」と題しまして、区民等の皆さんにもご参加いただきたく、シンポジウムを行います。7月に実施しますが、日にちは現在調整中となっております。時間は約2時間30分、2部制で実施いたします。会場は、芝浦1丁目にごございます、みなとパーク芝浦内、リーブラホールで実施いたします。</p> <p>プログラムですが、第1部は約30分で、区からMINATOビジョンについてご説明を行います。また、港区にゆかりのある方々からメッセージをいただく予定となっております。</p> <p>第2部は、コ・デザイン会議の委員の皆様によるプレゼンテーションを行っていただきます。「私たちが描く2040年代の港区」と題しまして各委員から専門分野ごとに港区の未来について語っていただき、参加者からの質疑応答を行います。</p> <p>ご説明は以上となります。</p>
清家区長	<p>ご意見、ご質問などございますでしょうか。大丈夫ですか。それでは進行を進めさせていただきます。</p>
清家区長	<p><5 MINATOビジョンの策定に向けたガイドブックについて></p> <p>続きまして「5 MINATOビジョンの策定に向けたガイドブックについて」、事務局から説明をお願いします。</p>
相川企画課長	<p>それでは、資料4「MINATOビジョンの策定に向けたガイドブック」をご覧ください。少しページが多くなっております。説明は若干お時間をいただきますが、ご了承いただきますようによりしくお願いいたします。こちらの資料は、タウンフォーラムでメンバーに配付し、将来像の検討の際に参考にしていただく資料となっております。資料の下の左右にページが付いておりますのでご確認ください。</p> <p>それでは、はじめに、3ページ、4ページをご覧ください。まず、項番1「港区が紡いだ軌跡 ～港区のこれまでを振り返る～」についてです。現在の港区基本構想が策定された2002年、平成14年から本年、2025年まで港区のトピックスをまとめております。2002年以降、六本木ヒルズや東京ミッドタウンなどをはじめとする新たな街づくりが進み、区では、総合支所の設置や都内初の家庭相談センターの開設など、区民に寄り添いながら様々な施策を展開してきました。2020年から、新型コロナウイルスの感染拡大により、区民生活や地域経済は極めて深刻な影響が生じましたが、区はアフターコロナに向けて区政を力強く推進してまいりました。現在もまちは発展を続け、区は社会経済情勢に的確に対応しながら各分野で先駆的な取組を進めております。</p> <p>5ページをご覧ください。政策評価から見る港区の政策の達成度です。港区は港区基本計画に掲げる各施策の達成度を平成26年度から3年ごとに評価し、改善を重ねながら区政を推進してまいりました。令和5年度の評価では、「都心の活力と安全・安心・快適な暮らしを支えるまちをつくる」で2つの政策、「環境にやさしい都心をみなで考えつくる」で2つの政策、「明日の港区を支える子どもたちを育む」で1つの政策について「不十分」との評価がございま</p>

した。

次に項番2「港区の現在地 ～見て感じる港区の今～」についてです。こちらは港区の現状を数字で示した資料になります。

7ページをご覧ください。基本情報といたしまして、令和7年1月1日時点で、港区の人口は267,780人、23区で17番目となっておりますが、昼夜間人口比率は373.4となっております、23区で3番目に大きくなっています。また、港区を5つの地区で見えますと、地区ごとに様々な特徴があります。

8ページをご覧ください。港区は国際性に富んだまちです。外国人人口は増加傾向にあり、2024年12月末現在の人口は22,614人で、区の人口の8.4%が外国人です。また、国内に157か所ある駐日大使館の半数以上の81か所が港区に集積されています。区は大使館と積極的に連携しながら取組を進めております。

9ページをご覧ください。港区は行政サービスのDXに力を入れています。昨年、2024年4月、都内自治体で初めて行政手続オンライン申請導入率100%を達成しました。また、竹芝エリアのスマートシティの取組が「スマート東京の実現に向けた先行実施エリアプロジェクト」に選定され、東京ポートシティ竹芝を核に様々な課題解決に活用する取組が進められております。

10ページをご覧ください。多様性を享受する価値観と人々の暮らしについてです。性的マイノリティの人権問題など、多様な価値観を認めることの認識が高まっています。港区では、みなとマリージュ制度の導入など、様々な取組を行っております。コロナ禍におけるテレワークの導入等を背景に、地方移住へ感心を持つ方が増えています。港区では、区内事業者と連携自治体のビジネスマッチングと継続的な連携・交流を図ることを目的に全国初となる「自治体連携によるワーケーション」を実施しております。

11ページをご覧ください。港区の強みと弱みを地域幸福度（Well-being）指標で他区と比較したデータになります。弱み・課題としましては、騒音、身近に自然が感じられないこと、人口あたりの刑法犯認知件数の多さ、二酸化炭素排出量が多い点が挙げられます。

12ページをご覧ください。子ども・子育てについてです。区の年少人口は、現在の基本構想を策定した2004年から約19,000人、約2.1倍増えており、中長期的には増加傾向を維持すると推計されております。また、合計特殊出生率は2023年で1.23となっております、23区で2番目の高さとなっております。

13ページをご覧ください。福祉・保健についてです。区の老年人口は2004年から約15,000人、約1.5倍増えており、今後も増加すると推計されております。障害者手帳の交付件数については、増加しており、特に精神障害者保健福祉手帳の交付件数は2008年度から2023年度で約3.6倍増加しています。65歳以上の健康寿命は2015年以降延伸の傾向が見られましたが、男性は2021年以降、女性は2022年にやや低下傾向にございます。

14ページをご覧ください。街づくりについてです。港区の緑被率や公園の緑地面積は2001年と比較して増加しておりますが、緑被率は2021年で22.6%であり、特別区部全体の緑被率の水準を下回っております。エリアマネジメント活動や歩きやすい歩行空間の整備が

進むなど、区民にとって住みやすいまちづくりが進められております。住宅戸数は増加し、共同住宅が占める割合が2022年で94.2%と、9割以上の方が共同住宅に住んでおります。

15ページをご覧ください。環境・リサイクルについてです。港区は社会経済活動が活発で、二酸化炭素排出量は都内で最大の排出量となっております。たばこにつきましては、吸う人も吸わない人もお互いに配慮し、快適なまちづくりを実現するため、指定喫煙場所は100か所以上を整備しております。また、ごみの排出量も2004年から減少傾向にあります。

16ページをご覧ください。防災・危機管理についてです。首都直下地震では、甚大な被害が出るのが想定され、帰宅困難者は23区で2番目に多い53万人以上と推定されます。住宅の耐震化率は進んでおり、区立住宅で100%を達成し、住宅では93%となっております。刑法犯の認知件数では2003年から大幅に減少しましたが、2022年以降増加傾向となっております。

17ページをご覧ください。産業と地域振興についてです。区内付加価値額・事業所数・従業員数は増加傾向にあり、付加価値額は23区で最大、事業所数・従業員数は千代田区に次いで2番目となっております。区内の宿泊者数はコロナ禍で減少したものの、回復傾向となっております。町会・自治会加入率は減少傾向が続いております。

18ページをご覧ください。教育についてです。不登校児童・生徒数は増加傾向にあり、2023年度の不登校児童・生徒数は、2008年度比で約5.3倍に増加しています。芝浦にあるスポーツセンターでは2014年にリニューアルオープンしたこともあり、利用者数は2002年比で3倍以上に増えています。

続きまして、項番3「港区の未来へのヒント ～2040年代に向けた未来予測～」についてです。2040年代の未来予測として、人口、経済、社会、環境についてまとめたものになります。

21ページをご覧ください。2040年の日本では人口減少が更に進展し、2040年の日本の総人口は2020年比で約89%、2040年の日本の出生数は2020年比で約85%に減少すると推計されております。団塊ジュニア世代が65歳を迎えること、生産年齢人口減少が加速することで、介護ニーズの増加や労働力不足等の課題が想定されております。

22ページをご覧ください。港区の人口についてです。港区の人口は増加が続き、2036年までに約50,000人増加し、317,575人になると推計されております。生産年齢人口の増加率を上回る割合で高齢者人口が増加し、2036年には高齢者人口1人に対し生産年齢人口は約3.4人となります。人口増加の要因として、港区ではおおむね20歳代・30歳代で転入者数が転出者数を上回る転入超過が続くと見込んでおります。

23、24ページをご覧ください。様々な技術が進歩、進展し、イノベーションの創出によって社会課題の解決が期待されております。高齢者の就労や副業・兼業の促進等、働き方の多様性が増すことが想定されます。

25、26ページをご覧ください。社会面についてです。人生100年時代が到来すると言われていの中で、地域で支えあい誰もが活躍で

きる社会、こども・若者が幸福に生活できる社会の実現が期待されております。今後起こりうると言われる災害や、新たな犯罪等を見据えた体制が整えられております。

27、28ページをご覧ください。環境についてです。2050年のカーボンニュートラル実現に向けて、温室効果ガスの排出削減に向けた取組の進展が期待されております。自然が有する機能を活用して持続可能な国土を形成する取組が進められ、自然と共生する社会の実現が期待されております。「環境活動としての3R」から「経済活動としての循環経済」へと転換が進んでおります。

続きまして、項番4「私たちが描く2040年代の港区 ～未来へのメッセージ～」についてです。

31ページをご覧ください。こちらは、本日お集まりの各委員の皆様が次回のシンポジウムでプレゼンをしていただく内容を掲載する予定となっております。内容につきましては、追ってご相談させていただきます。

32ページをご覧ください。こちらは、シンポジウムで港区にゆかりのある方から寄せられたメッセージを掲載する予定となっております。人選、人数等につきましては、現在調整中となっております。イメージとしてご覧いただければと思います。ご説明は以上になります。よろしく願いいたします。

清家区長

こちらのガイドブックは、今後、区民のワークショップなどで活用される基礎資料となりますので、委員一人ひとりの皆様から、特に将来の動向についてご意見を頂戴できればと思います。

それでは、遠藤委員から時計回りで、終わりましたら泉山委員、大木委員、コバーチ委員からお願いいたします。

遠藤委員

それでは私の方から、こちらを読ませていただいて考えたことを短くお話しさせていただければと思うんですけども、私はジェンダー平等や人権のところで招かれていると思うので、その話をしたいと思います。

港区の男女平等参画センターの資料等を拝見させていただきまして、港区の在住の方にですね、それぞれいろいろな分野で男女の地位が平等になっているかということ聞いたところ、男性優位という回答が多かったものとして、職場、政治の場、社会通念や慣習、しきたりなどということが6割以上を超えているというような結果になっておりました。

2040年、先ほどの資料にもありましたけれども、いろいろな技術が発達して、今回コロナ禍でテレワークが普及して大分いろいろな職場で導入されたと思うのですけれども、コロナの感染が落ち着いた中で良くも悪くも元に戻ってしまった部分があり、通勤がなくなることで様々なメリット、例えば子育てをしている方とか、持病があって満員電車に乗ることが難しい方とか、私自身も免疫の薬を飲んでいて満員電車に乗るのがリスクなのですけれども、そういう人たちにとって、テレワークや技術によってメリットが大きかった部分もあると思うので、そういうデジタル技術の活用ということと組み合わせて、多様性を推進していけるようなビジョンがあればいいかなと思っています。

あと、性的マイノリティの当事者としての意見なのですが、外国籍の住民が多いということとか、性的マイノリティの住民も最近ようやく可視化されるようになって、パートナーシップ制度もできて、地域の中でおそらくカミングアウトをして不動産を借りたりとか、病院を利用したりとか、そういうことが出てくることかと思えます。あるいは高齢化社会の中で、高齢の性的マイノリティの方をどのようにサポートしていくのか、そういうことも出てくるかと思うのですが、外国籍の方とか性的マイノリティの方とか、該当する当事者の方たちを集めて、自治体として意見を聞く場所を積極的に開催していただくと良いかなと思います。というのは、いろいろなマイノリティに共通することだと思うのですが、自分がそのサービスの対象となっていないんじゃないかとか、利用する際にたくさん説明をしないと分かっていただけないんじゃないかとか、そういうふうに思っていることが多いと思います。

以前、災害の際の外国籍住民の方のサポートということで専門の方に話を伺ったことがあるのですが、そもそも区の施設がどこにあるかも分からない方も多くいて、行政側からそういうコミュニティに出向かないと何に困っているかも分からないし、ということがあると聞いたことがあります。そういう当事者を集めた会があることによって、どういうふうに困っているかを率直に聞くことができるかなと思います。例えば、簡単に拝見した範囲ですと、港区の場合、ドメスティック・バイオレンスに関する相談が女性相談の位置付けの中にあって、名前も配偶者暴力相談支援センターとなっているわけですが、自治体の中にはDV相談としていて、より積極的に性別を問わず相談を受け付けているとか、同性カップルも相談ができると打ち出す方法があると思うのですが、結構こういう細かいことというのが自分は対象外だと思ってしまうところにつながっているんで、小さいことはとても言いづらいので、そういう機会をつくると拾い上げることができると思います。私からは以上になります。

ありがとうございます。お願いします。

福祉・保健分野からの立場かなと思うのですが、特に港区の場合、先ほども触れていましたが、外国人住民も他の区に比べると多い方である、そのことを考えると今世界的にも外国人の高齢化の問題に対して、各地域または国がどのように対応していくかということが課題となっているかと思えます。そういったところを考えると、港区の場合、外国人住民の定住する方々の高齢化の問題、今実際何が起きているのかというようなところも見ていく必要があるのかなというところなんです。

あとは、地区によって差がありますし、または経済面でもかなり格差が広がっているかなと思うのですが、ただ、港区の場合はふれあい相談員さんとか、先進的な取組があると思うので、そういった方々を対象に実際に現場で何が起きているのかというところをヒアリングする必要があるのかなと思っております。

特に感じているのは、これは全国的な動向ですが、町内会・自治会の加入率が非常に減っている。以前は地域の中で支えあいできていたところが、非常に今難しくなっている。その代わりに地域にある、例えばチョコザップとか、非常に元気な高齢者の皆さんがそ

清家区長
金委員

ういったところに通いながら、その中での地域のコミュニティをつくっているの、そういったところと、地域、自治体、行政としてどのようにつながりながら、いざとなった時の情報を得られるかというところのルートをつくっておく必要があるのかなと思います。

例えばその一環として、認知症サポーター養成講座とか、港区でも熱心を実施されていると思うのですが、その他にも認知症サポートステーションとか、登録されている機関はたくさんあるのですが、ただそういったところが何をしてくれるのか、意外と地域の中で知られていないという課題があるので、まずその登録機関を増やすだけではなくて、その次のステップに行く必要が、これからあるのかなと思います。特に2040年問題を考えたときに、一人暮らしの高齢者が非常に増えていくということを考えると、いざとなったときにどこの誰に相談したらいいのか、一応地域包括支援センターは知られているけれど、非常に手いっぱい状態である、ということを見ると、区内全体的にあちこちにそういった居場所、または話し合える場があると良いかなと思っています。以上です。

ありがとうございます。お願いします。

私自身は特に分野があるわけではないのですが、若者として、これから2040年代となりますと私も30～40代になって、多分子育て世代になってくるのかなと思ったときに、今の港区の家賃が高かったりしているとなかなか住めないのかなと。今の若者世代、20代の世代が大人になったときにそのまま港区に住めるかという、なかなか難しいところがあるのではないのかなと自分自身は感じています。そこについては、補助ではないですけど住みやすいようにするというような施策が必要なのかなと思っています。

また、スタートアップ文脈で言うと、私自身が今働いている会社は若者に対して投資を行って新しい起業家を創出するベンチャーキャピタルという業種で投資をしているのですが、そこで港区、他の区のモデルケースになるためにも、特区認定をとってよりスタートアップのいろいろな取組を行いやすくするというような活動はしてもよいのかなと感じております。今のところ以上になります。

ありがとうございます。次に佐々木委員お願いします。

レッドクリフの佐々木と申します。私は産業・地域振興の立場からコメントさせていただければと思っています。港区は観光地として魅力的な優れたアクセス・立地条件から、東京都内でも非常に魅力的なエリアと考えております。港区では夜間の人口をさらに増やすために世界から注目されるようなナイトタイムコンテンツを充実させて、夜の港区のブランド価値を高めることで新たなにぎわいの創出に貢献していきたいと考えております。

具体的には、毎年お台場エリアでスターアイランドというようなイベントも、次世代エンターテインメントですね、興行イベントにも携わらせていただいているのですが、港区のロケーションや夜景というところを生かして、新しい観光コンテンツというものをつくり出していきたいと考えております。私自身エンタメが好きで、世界中のエンタメを見に行くことも多いので、それらをキャッチアップして港区の魅力と一緒に取り組んでいけるような新しい振興というのを考えていきたいと思っています。

エンターテインメントも常に新しいものができておりまして、例え

清家区長
古長谷委員

清家区長
佐々木委員

清家区長

杉山委員

ばドローンショーというカテゴリも新しいもので、いろいろな制限の中でやらせていただいていたとか、レーザーの演出とかプロジェクションマッピングとか、いろいろあるのですが、新しいものには既存のルールがないことでなかなか許可を出していただけないようなこともあったりしますが、中国や中東とか見ていると、大規模なエンターテインメントとか、既存のルールがない中で新しい取組にたくさん挑戦しているような都市も多くあると思いますので、そういった部分でエンタメでも、エンタメ特区のようなところなどで、港区として新しいことにチャレンジできて世界の注目を集めるようなエンタメというものをつくり上げていけると嬉しいなと思っています。

ありがとうございます。途中からいらしていただいたんですね。自己紹介を先にしていただきたいと思います。

若者・学生分野を担当します戸板女子短期大学国際コミュニケーション学科、杉山琴珀と申します。語学力を身に付けられる戸板女子短期大学に入学し、英語や中国語、韓国語を学び、実際、韓国短期研修に参加、修了、また、異文化交流プロジェクトに参加し、大使館、米軍基地の訪問、ボランティアに参加しました。現在、学生として芝消防団に所属しており、縁あって今回参加させていただきました。よろしく願いいたします。

コメントとしましては、グローバル化が更に進展していく中で、資料では外国人人口が増加傾向、駐日大使館の半数以上が集積しているとありました。実際に大使館訪問やイベントで外国人と交流する場所を増やすことで語学向上をめざす人や、異文化に興味がある人が港区に足を運ぶきっかけになるのではないかと考えます。

また、今、AIやIoT、ロボットが身近になってきています。そのため身近な施設などでAIを活用した遊び心のある展示や体験を港区ではじめてみても良いと思います。例えば、図書館に自己分析を取り入れたAIを設置し、自分にはどのようなジャンルの本が合うのか分析できたなら、港区での更なる利用者の獲得が期待できると考えます。

そして、学生として芝消防団に所属しています。消防団では、実際に震災訓練や救命講習を行い、防災意識を高めています。現在、消防団では年上の方が多く、もっと若い年代や同年代、また、海外の方にも防災意識を高めてほしいと思っています。そのための案として、被災者や災害ボランティアの方から話を聞くことで実際に災害が起きたときの糧になるかもしれません。

最後に、2040年代の私は35歳になります。想像できませんが本業でバリバリ働き、2040年代では副業や兼業が普通となり、革新的なアイデアを取り入れ、常に成長していきたいと思っています。以上です。

清家区長

中川委員

ありがとうございます。次の方お願いいたします。

社会構想大学院大学の中川です。私の専門領域である情報と教育についてお話をさせていただきます。まず、現段階での港区の子どもたちの学びには私も関わらせていただいて、GIGAスクール構想を着実に実装されて、港区の小・中学校はおそらく日本でも随一のネットワークの速さで、ICT環境を使って学びをする上では環境としては申し分ない状態になっているかと思っています。これは環境の話

で、実際にどのように学んでいくかというところに関しては、子どもたちと教員の2つの視点で考えていく必要があると思っています。子どもたちの学びは、昨今不登校も多く、港区も、というデータがありましたけれども、画一斉型の同じ教材を使って、同じ内容、同じ進度で学んでいくというやり方も一定効果はあるのですけれども、今の子どもたちは情報の中に生きていますので、たくさんの情報の中から自分に興味を持てるものを自分の意志でピックアップしていき、積極的に学んでいける環境というものをもっと推進していく必要があるかなと思います。

そうすると画面に向かって勉強して、孤立化してしまうのではないかと、というところを、孤立化しないようにクラウド環境等を上手に使い、学校をまたいで同じ興味関心を持っているような子どもたちがつながるような、クラウドの環境づくりというのも、これは協働的な学び、個別最適であり、協働的に学んでいく環境というものをつくっていく必要があると思っています。

これはベーシックな学びで、港区の特色を考えると、IT企業やロボットの産業もあるかと思っていますので、そういったところとコラボしながら、最先端の、学校内だけではなく地域も連携したような学びというものをつくっていくいけないかなと思っています。

子どもたちにそういった環境を提供しようと思うと、鍵になってくるのは教員だと思います。教員は東京都内で異動もおありだと思うのですが、港区の教員はやはり港区のことをよく理解して、港区ならではの教育ができるような、教員に対する教育やサポートをもっと充実していけると良いと思っています。

ICT環境を上手に使うことで、子どもの見取りもしっかりできる。我々が例えば、スマホを持って家族と離れていてもすぐ連絡が取れたりということをもっと教室の中でも充実させていくことによって、教員の多忙化を解消しながら、子どもの見取りをしっかりしていくようなことを、ITの技術を使ってやっていけないかなと思っています。

あと、学校のネットワーク環境を充実しているという話をしましたが、学校施設全般としては、とりわけ中学校においては、地域の特色や地域との関わりをもっともっとプロデュースできるような学校施設というものを、20年経つとひょっとすると新たな学校なり統廃合なりということも視野に入ってくると思いますので、特色のある学校・施設づくりを積極的に考えていくべきだと思います。以上です。

ありがとうございます。次の委員、お願いします。

みなと環境にやさしい事業者会議の藤原です。私は環境の専門家ということではないので、場合によってはちょっと、とんちんかんなコメントになってしまうかもしれませんがご了承ください。私はエネルギー会社で働いているので、環境の中でもまずはエネルギーについて少しコメントをさせていただけたらと思います。

やはりこれからのエネルギーは、カーボンニュートラル社会の実現に向けて変えていくということが大きなテーマです。先ほどの資料にもあった再生可能エネルギーの導入促進は世界共通のテーマで、日本でも特に東京は、東京都が主体的にやって、港区でもいろいろな形で補助金を付けながら推進しているという流れは止められ

清家委員
藤原委員

ないし大事な取組であると思っています。

ただ、どうしても、では再生可能エネルギーとして太陽光パネルを置こうと言っても、港区だと場所が狭かったり、集合物件ばかりだとなかなかやりづらかったりということで物理的な課題もあると思います。今、国策で太陽光パネルも薄型の、ペロブスカイトというのですが、そういったものをビルの壁面に設置できるようにするなど、新たな開発等も進んでおりますが、是非、これは港区ならではの、狭小ならではの取組というものが必要になるかなと思っています。

エネルギーを再生可能エネルギーにすると言っても、まず大事なことは、いかなる場合でもお客様にエネルギーをお届けする、我々事業者的には安定供給と言うのですが、お客様に使っていただける環境をつくるということが大事です。どうしても再生可能エネルギーだと天候に左右されて本当に必要な量が確保できなかったりということもあったりといういろいろな課題がある中で、お客様にガスが届かない、電気が届かないことで困らないためにどういう体制が必要か、常に考えなければならない。特に地震、最近では風水害、こういったところでやはりガス・電気が止まるということがないように、止まってもすぐに復旧できるような仕組みをつくるということが大事だと思っています。

もう一個、これからの水素の普及という項目もありました。やはりこれから水素は、燃焼してもCO₂が出ないので、そういう意味では重要なエネルギーかなと思っていますが、既存の設備にそのまま使うということが難しく、どうしても設備の改修をしなければならない。そこに関わるコストも相当大きくなるようになっていくので、このあたりは適所、うまく使える場所にはそのあたりを使う。例えば、発電所には水素の発電をすとか、バスのようなある程度インフラが整っているところには水素バスを普及させる。こういったところをやりながら、やはりエネルギーで大事なことは、昔みたいに遠くで発電所から電気をワットと送って、一人ひとりへ届けるということよりも、それぞれのエリアで、地産地消というのですかね、家庭であれば家庭でエネルギーをつくって一緒に発電もできるような設備も今はありますし、エリア全体でそういうプラントをつくってそのエリア一体的に供給する。こういったようなものをさらに普及していくことが必要だろうなと思っています。

エネルギー以外にもいくつかプラスチック対策、グリーンインフラ等、いろいろありましたけれども、港区の中で、先ほど街づくりの緑被率がありましたけれども、緑とどう共存して自然と共存する社会を港区で推奨することが大事だろうと。再開発に緑があることで資産価値が高まるとか、緑があることで生物が住み着いて生物多様性の社会を実現できるなど、こういったところもぜひ港区だからこそ、都心の地価が高いところでも緑と共存することで、このビル群が心地よい住みやすいエリアになっていく、こういった社会は是非、環境という面では実現できることが望ましいのかなと思っています。私からは以上になります。

ありがとうございます。お願いします。

森山です。よろしくお願いします。2040年に港区がどういうまちになっていくのかということ想像しながらお伺いしてござい

清家区長
森山委員

て、これから高齢者層が増えたり、リモートワーク等で、今おそらく税収の多くが法人税であると思うのですけれども、果たして2040年になってもそれが維持できるのか、みたいなことも考えながらお話を聞いておりました。リモートワークで法人が、企業人がずっと港区にいるのか。特に、子育て層が地方の教育環境が充実した場所に移動するというような流れもある中で、どういった人たちが、特に子育て世帯が残っていくのかなというところはもう少し具体的に描いていく必要があると、このガイドラインを拝見して思いました。東京全体が富裕層でないとなかなか暮らせないまちに今後なっていく、家賃等の関係でなっていくと思うのですけれども、特に港区についてはその傾向が強くなるのではないかと感じておりました。その中でおそらく富裕層の外国籍であったりとか、DINKSであったりとか、多様な家族が港区は非常に多いまちになっていく、他の場所に比べても多くなるのではないかと推測しながら読みさせていただきました。

その中でどういった問題が発生するのか、どういった課題に向き合わなければならないのかというところについては、多様な家族の在り方をしっかり踏まえた教育や子育て環境を設計していかないと、彼らが居辛いというか、彼らすらもいなくなっていくのではないかと感じています。

あと、私たちが虐待の文脈で関わっておりますと、港区はじめ、こういった富裕、言葉選びが難しいのですが、こういったエリアの特徴としては児童相談所が非常に機能しづらいという問題があります。子どもが叫んでも防音がしっかりしておりますし、非常に介入しづらいし、虐待が見えづらい。なおかつ習いごとや教育に熱心で、教育虐待等が起きやすいのですけれども、既存の行政制度や児童相談所の仕組みではなかなか発見しづらい、まちの中でも、最も発見しづらいまちになってきていると感じておりました。その中でどうやって都市部ならではの虐待の発見や孤立を防いでいくのかというモデルづくりをしていく場所になる必要があるのではないかと考えております。

また、赤ちゃんや子どもに関しては、うるさくしても良い場所がどんどん減ってきているように感じておりました。商業的なまちという印象もあるかと思しますので、そういったところをどのように整備していくのか。

また、中高生に関しては、教育虐待はじめ、とにかく忙しい、休む時間がない、自分らしくいられる場所がない、というところをどうやって保障していくのか。

また、子ども・子育てでは、子どもがいない家庭とどうやって共存させていくのかといったところが港区の子ども・子育てにおいて大きなテーマになっていくのではないかと考えております。

あとは、ちょっと話が外れるかもしれませんが、今、高層ビルやタワマンがたくさん建っている中で果たしてそれが空洞化していかないのか、それをどのように活用していくのかということも、今後、子ども・子育て政策にも大きな影響を及ぼすのではと考えております。以上です。

ありがとうございます。次に、泉山委員お願いします。

街づくり分野でコメントさせていただくのですけれども、今回基

清家区長
泉山委員

本構想は約20年ぶりということで、20年前は六本木ヒルズができて、というふうなところですし、港区と言えればひとつ、なんとかヒルズのイメージもありますけれども、今は竹芝や他のエリアの開発もあります。ただ、今は山手線を中心に丸の内、日本橋、渋谷、品川とか、周辺エリアの開発も台頭しているという状況の変化もありますし、街づくりの中では西高東低と言われて、今大阪が非常に、グランドグリーン大阪や御堂筋なんば広場等とかですね、非常に意欲的な事例が出てきていて、港区だけではないのですが、東京全体としてももっと街づくりは頑張っていかなければならない、そんなところを感じております。

世界の都市のトレンドでは、リバブルシティという住みやすい都市のランキングがあって、コペンハーゲンとか、ウィーンや、メルボルンなどが上位で、そういったところで去年大阪は9位に上がっていて、東京ももっと、いろいろご指摘いただいている問題も含めて、もっと住みやすくしていく必要があるかなと思っています。

あと、姉妹都市のパリでは15分都市というような、徒歩15分で歩けるような街づくりということで、日本でも今、ウォークアブルな街づくりをやっているのですけれども、そういったところも推進していくべきと思います。

また、誰が2040年にいるのかと言ったときに、生産年齢人口の中心に次の世代の人たちが入ってくるということがあって、これまでの価値観のまちづくり、車中心、機能主義を続けていくだけではなく、ミレニウム世代、Z世代以降の新たな世代が生活していくような、価値観が多様化した人中心の街づくりが必要かなと思っています。

そこには環境系のカーボンマイナスとか、ネイチャーポジティブであったりとか、ウェルビーイングというようなものもありますし、イノベーション、スマートシティ、スタートアップ等の企業活動、それから、エリアマネジメントにおいても企業活動と区民の地域の活動の連携などの、そういった様々な皆さんご指摘の社会的な課題もハード・ソフト面の両輪でやっていけるような、世界にも誇れるような街づくりの取組を展開していくべきと考えております。以上です。

ありがとうございます。大木委員お願いします。

防災の観点から大きく4点お話ししたいと思います。

1つ目が事前調査の見方についてお話して、2つ目が帰宅困難者について、3つ目がタワーマンションについて、4つ目が区の職員のことについて、4点について申し上げます。

1つ目なのですが、事前調査で11ページだったと思うのですが、防災対策がしっかりしていると区民の皆さんが思っているという結果があったのですが、これをどう見るかというところで、区の防災対策を一生懸命ホームページで見て、「これなら大丈夫だ、しっかりしている」と回答しているのではなく、そうしたいという願望が入った数値のはずなのです。それは、実際に港区がやっていないということを申し上げたいのではなくて、実際に研究として、例えば、災害情報、津波避難警報や大雨警報などの災害情報が、私たちは研究して一生懸命情報が出せるようにするのですけれども、それが増えれば増えるほど、人々は避難をせずに情報待

清家区長
大木委員

ちになるという傾向が分かっていて、分かっているけど情報を出さないようにするということはできないので、防災対策がしっかりしていると思っていただいているということは信頼を得ている。じゃあ得ている信頼を使ってどのように自助や共助の方に持っていくかという、そのようにこの結果自体は見なければいけないかなと感じています。

実際、これは東京都がやることですがけれども、公助でやっているのは、耐震化の補助や緊急道路等の整備で、あとは自助や共助がもちろん必要なんですよ、家具を固定するのはご自分でやるんですよ、ということを基礎自治体の公助としてやっていく、そういった視点が必要になってくるかなと感じました。

2点目の帰宅困難者の話なのですが、港区は昼間人口が多いです。私も港区民なのですが、ということは区外から港区に通勤されている方を発災時には留めるということになってきます。それは生きていけば、生きていけばいつか会えるので、そして首都直下地震等の場合は東日本大震災のときのように800km離れたところに震源があるのではなくて自分の直下にあるわけですから。

東日本大震災のときの帰宅困難の成功体験で、帰ると何が起きるかという、余震で倒壊してくる建物に巻き込まれるとか、国の推計だと電話ボックスの中に6人くらい入っているようなぎゅうぎゅう詰め状態になるので、火災で逃げることができなくなって焼死の数が増えてしまうといったことが推定されています。ですので、区外から区内に通勤されている方も、区に留めることが大事になってきて、それはつまり港区内にある事業所がどれほど防災対策をやっているかということに関わってきます。企業はBCPに力を入れていらっしゃるのですが、多くの場合、自分が被災してなくて取引先が被災していてロジスティクスが来なくて産業が困るといった視点になりがちで、自分が被災することをあまり考えきれていないような傾向が、これは港区だけではなく全体的に企業はそのようなBCP対策をしている傾向があります。そういったことについて、区内にある事業所について、区からも啓発等のサポートが必要かなと思います。

区民の方は逆に区外にいる方もいらっしゃると思います。他区や、私のように神奈川県に通勤しているなど。そういった方々が無理に帰らないということは何に関わっているかということ、子どもたちが、あるいは介護をしている自分の高齢の両親がいる施設が、防災対策にきちんと取り組んでいるかどうかということに非常に関連してきます。不安があった場合は無理してでも帰ろうというふうになるので、帰る途中で被災して永遠に会えなくなってしまう。ですので、これは区内の幼稚園、保育園、それから小・中学校、高校の防災教育を充実させるということに大きく関わってきます。

3点目のタワーマンションについてですが、短くですが、首都直下地震については基本的にはタワーマンションは倒壊しないと基本的には考えられていて、一方で避難することができないので、マンションの方は避難所に行ってはいけませんよ、ご自分たちでマンション内に残らないといけませんよ、ということ等を常に周知していく。南海トラフ地震については、いずれ確実に起きるのでありますが、タワーマンションだけが揺れ続けるという現象

が起きることが地震学的にわかっています。複数回の長い継続した大きな揺れに対してタワーマンションがどうなのかということと、留めていない家具は倒れてきますし、上の方の階の方は、窓から道路が見えるくらいのしなり方をするとということに対してどうするか。しっかり周知して、対策をしていく必要があると思います。

最後4点目なのですが、区の職員についてと申し上げたのですが、これだけ災害が大規模になっていて、なおかつ人口減少していく中で、基礎自治体だけで発災後の手続等を進めることは土台無理になっていて、日本のどこでもそういうことが起こっています。ですので、区役所の方々はご自分も被災者でありながら区民を助けるというスタイルになっていくので、これはもう不可能なのですね。ですので、区民がどのように、公助をサポートするか、というか、結局は自分に返ってくるものなのですけれどもそれをサポートするかということです。これを突き詰めていくと、例えば、防災産業みたいなことにもつながり、今日はドローンの話がありましたけれども、ドローンで夜景産業という話がありましたが、発災時に高層階をドローンで視察するというようなことをはじめて実施した区であるとか、防災産業のほうにもつながると思うのでそういったいい形で帰着できたらと思います。

清家区長
コバーチ委員

ありがとうございます。コバーチ委員お願いします。

すみません、ミーティングの途中はちょっと音が聞きづらかったのですが、私から2点コメントがあります。

防災について、前の港区のミーティングでもお話ししましたように、大使館の方々は港区に登録する必要がないので、私たちは、大使館の外交官は、直接外務省に名前を出してカードをもらっているのです。防災については一切知らないのです。防災のパッケージとか、港区からいただいているパッケージは、普段の外国人は港区の区役所に行って登録する際にいただくという話を伺っているのですが、大使館の外交官や外交官の家族はもらっていないので、そこは前のミーティングにも話をしたのですが、将来的にいただけるようになると、外国人にとって、防災についてとか被害についてどうすればいいか、もっと分かりやすくなるのではと思います。

3点のところ、どちらのところもコメントが結構ですかね。間違いないのですね。決まっていますか、どこがコメント必要かって。自分が決めて大丈夫ですか。

清家区長
コバーチ委員

もちろんです。

少子化の問題、日本の人口がどうなるかというところがありますので、そこはひとつの個人的なコメントなのですが、仕事の関係でつい最近港区の芝浜小学校に訪ねに行きました。知らなかったのですが、給食と教科書と他のもの、例えば学校で使う道具とかは無料であると知りました。国が無料にしている部分もありますけれども、港区だけが提供する、生徒の家庭が払わなくてよいものもあると伺いました。それは凄く良いアイデアだと思います。港区に引越すといろいろな部分が無料になるとか、教育関係の費用が少し下がることはとても良いと思います。私たちにも、ハンガリーにもそういうことはないので勉強になりました。

そこから考えたのは、保育園と幼稚園の数はハンガリーの目で見るとちょっと日本は少ないといつも思いました。さらに、知りあい

<p>清家区長</p>	<p>から聞くと、保育園と幼稚園の費用はとても高いです。毎月払わなければならない費用が高くて、子どもたちを幼稚園・保育園に入れない人が多いので、そこをもし例えば何かの補助金とか、幼稚園・保育園を無料にすることはできない可能性があると思うのですけれども、そこを安くすることにすると、港区に住みたい方の数が増えてくるのではないかと思いました。以上です。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>今、皆様それぞれの知見、それぞれの立場から非常に考えさせられる、そして気付きの多いお話をいただきましてありがとうございます。今港区にある課題というものが、それぞれの分野でのお話を聞いてよく見えてきました。2040年代、20年後はあつという間に来るものではありますが、今ある課題が顕在化、高齢化していくということでマイノリティの方々の高齢化、外国から移転してくる人たちの高齢化など、実際起きるだろうなと思っているものが、実際見えたような気がします。</p> <p>子どもや若者が住み続けられる港区であるのかという今抱えている不安というものが顕在化していくだろうということと、そして生産年齢人口が減っていく中で、どういう人たちが港区を支える層になっていくかということも考えていくことが重要だと思います。</p> <p>世界に誇れる街づくりというもの、また、環境の面で、自然が足りないと感じていらっしゃる方が多いことも、それが現実になっていくわけで、それをどうやって解決していくかと、今お話をいただいた中で見えてきたもの、それに対してどういう方向をめざしていくべきなのかということ。これから、いただいたご意見をこのガイドブック等に反映させながら、ブラッシュアップしていきたいと思っています。ありがとうございました。</p>
<p>清家区長</p> <p>相川企画課長</p>	<p>< 6 情報発信について ></p> <p>それでは進行を進めさせていただきます。続きまして、「6 情報発信について」、事務局から説明をお願いします。</p> <p>それでは資料5「広報みなと5月15日号」をご覧ください。こちらは「案」になります。5月15日号の広報みなとにおきまして、区民の皆さん等へMINATOビジョン策定についてお知らせをいたします。</p> <p>1面では、ご覧いただきましたとおり写真で、お子さんから高齢者まで多くの区民と共にMINATOビジョンを創り上げるという想いを示したのになっております。中面ではMINATOビジョンとは何か、また、将来像を学識経験者や区民の皆さんと共に検討するという内容を掲載しております。</p>
<p>清家区長</p> <p>古長谷委員</p>	<p>また、区ホームページでは、特設ページを作成し、検討状況を随時お示しする予定となっております。ご説明は以上になります。</p> <p>ありがとうございます。ご質問・ご意見等ございますでしょうか。</p> <p>MINATOビジョンそもそもについての周知が、ツイッター含め若者に対しては全く届いていないような気もしていて、ツイッターで例えば「MINATOビジョン コ・デザイン」と調べても多分ほとんど何も出てこなくて、2～3件のツイートがあるくらいかなと思っています、そこを含めて学校に対しての周知などをしてもらったほうが、</p>

	<p>より、みなと子ども会議等、下のほうにも続いていくのかなと感じました。</p>
清家区長	<p>そうですね、おっしゃるとおりだと思います。企画課長、お願いします。</p>
相川企画課長	<p>ご意見ありがとうございます。今、ご意見いただきましたとおり、学校などですね、周知をさらに行ってまいりまして、多くの皆様にこのMINATOビジョンというものが何なのかというところをお知らせしてまいりたいと思います。よろしく願いいたします。</p>
清家区長 森山委員	<p>他に何かございますか。森山委員お願いします。</p>
	<p>今の話とも通ずるのですけれども、MINATOビジョンとか、タウンフォーラム、コ・デザイン会議等の用語を知らない方も多いかなというところで、もう少し吹き出しとか、どういう会話がなされるのか、自分が参加したいとか発言するイメージが湧くような形だと参加のハードルが低くなるかなというふうには感じました。特に若い世代や子育て世代にとっては何一つ馴染みがないワードかなと思いましたので、こういうことはより詳しく知りたい人が見られる場所に書いてあればいいのかなと思いました。</p>
清家区長 相川企画課長	<p>はい、企画課長お願いします。</p>
	<p>ご意見ありがとうございます。タウンフォーラム、それからコ・デザイン会議、その他を含めまして、この言葉がどういうものなのか、またどういったことが行われているかというところを丁寧にご説明してまいりたいと思います。よろしく願いいたします。</p>
森山委員	<p>すみません、その説明自体をする必要はあまりなくて、それよりも、自分はどのような発言が求められているのかとか、どういう意見交換がされるのか、吹き出しじゃないですけれども、そっちをメインにして、この辺の話は参加する人にとってはあまり重要ではないのかなと思ったので、むしろ丁寧に説明をする必要はないんじゃないかという意味でした。</p>
相川企画課長	<p>すみません、改めまして、言葉もそうなのですけれども、どのように発言ができるのか、ですとか、自分がどのように参加ができるのか、というところなどを含めまして周知をもっと行ってまいりたいと思います。また、多くの皆さんからアンケート等でもご意見をいただきたいと思いますので、その点も含めまして周知を行ってまいります。</p>
清家区長	<p>多分、イメージしやすい、という方ですよね。広報戦略じゃないけど、参加しやすくなるような伝え方、コミュニケーションのやり方を考えるということかなと思います。その辺について考えてまいりたいと思います。ありがとうございます。</p> <p>他にご意見等ございますか。大丈夫ですか。</p> <p>それでは進行を進めさせていただきます。最後に「7 その他」について、事務局から説明をお願いします。</p>
相川企画課長	<p>< 7 その他 ></p> <p>次回の「MINATOビジョン コ・デザイン会議」につきましてご説明させていただきます。</p> <p>先ほど少しご案内させていただきましたが、次回はシンポジウムを行う予定となっております。日程につきましては調整中となっております。</p>

清家区長

おりますので、確定次第ご連絡させていただきます。どうぞよろしく
お願いいたします。以上です。

ご質問やご意見などございますでしょうか。よろしいですか。そ
の他、全体を通してとか大丈夫ですか。

なければ、以上で「第1回 MINATOビジョン コ・デザイン会
議」を閉会いたします。

本日は貴重なご意見、ご参加ありがとうございました。引き続き
よろしくお願いいたします。

<閉会>